

第109回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：令和6年2月6日（火） 16：30－17：45
2. 場所：中央合同庁舎4号館共用1208特別会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
宇宙政策委員会
後藤委員長、常田委員長代理、遠藤委員、片岡委員、白坂委員、鈴木委員、松尾委員
 - (2) 事務局
内閣府宇宙開発戦略推進事務局
風木事務局長、渡邊審議官、滝澤参事官
 - (3) オブザーバー
森昌文内閣総理大臣補佐官
宇宙航空研究開発機構（JAXA）：山川理事長
 - (4) 関係省庁
内閣官房内閣衛星情報センター管理部：市川部長
総務省国際戦略局：豊嶋審議官
文部科学省研究開発局：千原局長
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課：上田課長
経済産業省大臣官房：浦田審議官
国土交通省大臣官房：石橋技術総括審議官
農林水産省農林水産技術会議事務局：東野研究総務官
環境省地球環境局総務課 気候変動観測研究戦略室：岡野室長
防衛省大臣官房：北尾審議官

4. 議事要旨

- (1) 後藤高志宇宙政策委員長による米国航空宇宙局（NASA）等の訪問について
宇宙事務局および後藤委員長より資料1に基づき報告を行った。
- (2) 令和6年度宇宙関係予算案等について
宇宙事務局および各省より資料2-1～2-9に基づき説明を行った。
- (3) 宇宙戦略基金の今後の検討の方向性について
宇宙事務局より資料3-1、3-2に基づき説明を行った。

委員からは以下のような意見があった。

○防衛省において、小型衛星コンステレーションを活用した画像解析用データ取得に取り組む際は、ぜひ国内企業からも積極的に調達してほしい。

- 宇宙関係予算が、かつてないほど大きな規模感になってきた。一過性のものとせず、宇宙分野に新たに参入した人材が、今後も継続的に働き続けられる環境を構築してほしい。
- これだけ予算規模が拡大すると、世界的にも注目されるだろう。これをテコとして、今後は国内プロジェクトのみならず、海外の企業やエージェンシーとの連携も見込んで、攻めの姿勢で国際戦略を検討してほしい。
- 拡大する予算をうまく活用し、運用するためには、政府側の人材増強も必須であろう。
- 国内のロケット打上げ件数を増やすためには、海外の打上げ需要の獲得も必要である。そのためには、国際標準の議論への参画などを通じ、制度面における環境を整備することも重要。

以上